資料１（第２回産学公連携協議会）

第２回

健康と文化の森地区産学公連携協議会

日時：2024 年（令和６年）12 月４日（水）
午後２時 00 分～
場所：藤沢市役所　本庁舎　６階　6-1 会議室

次　第

1. 開会

2. 議事
（１）産学公連携実行プランの骨子について
（２）産学公連携のあり方について
} 資料２

3. その他

4. 閉会

第2回　健康と文化の森地区

産学公連携協議会

令和6年12月4日（水曜日）

藤沢市役所　本庁舎6階　6-1会議室

事務局：藤沢市　都市整備部　西北部総合整備事務所
藤沢市　企画政策部　企画政策課
藤沢市　経済部　産業労働課
株式会社フジタ（土地区画整理組合 業務代行者）

次　　第

議事

１．産学公連携実行プランの骨子について

２．産学公連携のあり方について

産学公連携実行プランの骨子について

産学公連携実行プランの構成イメージ

１．プランの位置づけ

２．策定の背景

３．めざす姿

４．展開する施策

５．プランの推進体制

産学公連携実行プランの骨子について

■産学公連携実行プランの構成イメージ

1.　プランの位置づけ

・藤沢市の既存計画との関係性やプランの役割について明示する。

2.　策定の背景

・産学公連携に関するこれまでの取組や現状、課題を交えながら策定の背景を明示する。

3.　めざす姿

・現状のまちづくりの状況や今後のまちづくりの方向性も勘案しながら、産学公連携の「めざす姿」を明示する。（例えば、目標、ビジョン、方針等）

産学公連携実行プランの骨子について

■産学公連携実行プランの構成イメージ

4.　展開する施策

・「めざす姿」を実現するために展開する施策を明示する。ハード・ソフトの両面から明示する。
・各施策を担うそれぞれの主体の関わり方を明示する。

5.　プランの推進体制

・産学公連携実行プランを推進するための体制を明示する。

意見聴取結果や連携協議会での意見を踏まえて整理する。

産学公連携実行プランの具体的な内容は、
次回以降に順次提示します。

次　　第

議事

１．産学公連携実行プランの骨子について

２．産学公連携のあり方について

2．産学公連携のあり方について

◎産学公連携の考え方（前回資料より）

■ 前回のおさらい（第１回産学公連携協議会資料P22）

ＳＦＣの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術・研究機能を核に、産学公連携によるビジネス育成や国際交流拠点の形成を目指す

一般的には・・・
企業（産）と大学等（学）と政府や地方公共団体等（官）が連携して、新しい技術の研究開発や新しい事業の創出、新しい製品の開発などを行うこと。

全国的には・・・
研究内容が市場・企業のニーズに合っていないという声が多い。
大学等の研究シーズや研究者の研究開発課題、特許等の情報が少ない。

■関係者のコンセンサス
■まちづくりを担うさまざまな主体が連携し地区の強みを活かす活動や取組

産学公連携
実行プラン

【方針①】
ＳＦＣ隣接地である優位性の訴求。
【方針③】
ビジネス育成に向けた機能誘導

2．産学公連携のあり方について

◎産学公連携に向けた調査（大学や企業のニーズ・シーズ把握など）

本地区における産学公連携のあり方を考えるにあたり、本連携協議会とは別に次の取組を実施。

- 企業へのアンケート・ヒアリング及び意見交換（大学との連携や立地に対する考え方）
- 慶應義塾大学へのヒアリング及び意見交換
- 学生へのヒアリング及び意見交換（SFCの学生、他大学の学生）
- 近隣住民へのヒアリング及び意見交換

本地区の産学公連携に求められていること、あり方を検討

2．産学公連携のあり方について

★ヒアリング・意見交換の結果

【企業】

- ✓ 大学連携を目的とするスタートアップ及びベンチャー企業の進出意向は、把握できたものの、事務処理程度のオフィス機能の確保を希望している。研究所の進出意向は、現状で確認できていない。
- ✓ その他の企業立地に関しては、老朽化や事業用地の拡大に起因している。また、人材確保の観点から従業員の住環境を重視する傾向であった。
- ✓ 行政に対しては、ハード面の整備だけでなく税の優遇や補助金、事業サポート体制等、ソフト面での施策などの各種支援も求めている。

【大学】

- ✓ SFCには起業をめざす学生が多い。また、起業をめざす学生の中には、地域との接点を求める学生もいる。
- ✓ SFCは文系・理系に捉われない活動が多い。（工学系、医学系は他キャンパス）
- ✓ 地域との交流機会が限定的だが、地域のことを知れば興味を持つ学生はいる。
- ✓ まちづくりに興味を持つ学生がいる。(学生から商業施設等での地域との連携の提案があった。)

【市民】

- ✓ SFCは一般の人も自由に出入りできることは知っているが、出入りする機会が少なく、緑で囲まれ、高台に立地していることから足を踏み入れにくい。
- ✓ 学生と交流できる機会や場所があると良い。（地域イベントの担い手不足がある）

2．産学公連携のあり方について

ヒアリング・意見交換より見えてきた事

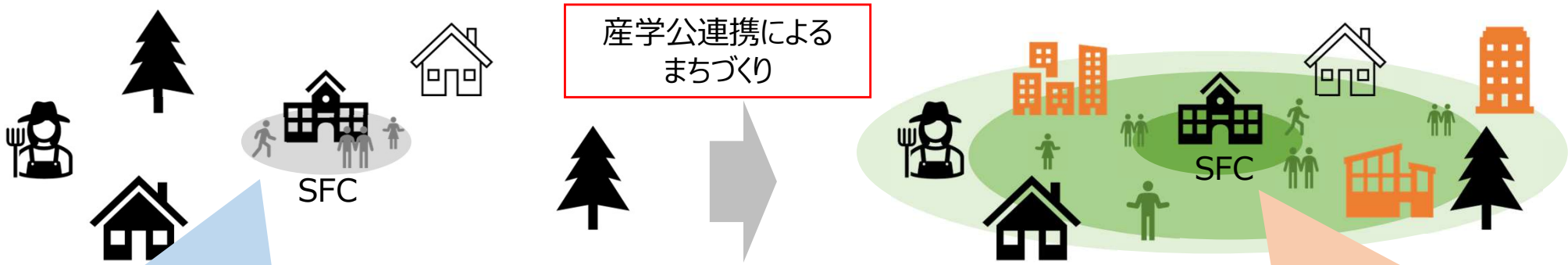
- ✓ 研究所の進出は不透明。また、スタートアップやベンチャー企業が大学連携を期待しているが、見込みは不透明。
- ✓ 企業立地の判断においては、老朽化や手狭になったことに起因するケースが多い。また、人材確保の観点から住環境を重視する傾向がある。
- ✓ 一般的な産学公連携は、共同研究による新規事業等の創出を目的としている事が多く、工学系や医学系の学部を対象としたものが主体となっているが、SFCでは理系、文系に捉われない活動が多く、一般的な産学公連携にはなりづらい。
- ✓ まちとの関わり（地域や企業等 ）に関心がある学生が潜在しており、産業系の連携だけでなく、商業施設等における連携にも期待ができる。
- ✓ 起業をめざす学生に対しての支援も必要。

2．産学公連携のあり方について

◎産学公連携に求められている事

★本地区の産学公連携に求められる事は･･･

企業と大学との連携によるビジネス育成も重要だが、地域や大学・学生による活動拠点の形成にも重きを置いた取組が求められる



- 地域と学生の接点を創出してなかった
- 学校以外に立ち寄る施設を設けてなかった
- まちづくりに携わる機会を供与してなかった

- 地域と学生の交流でまちが活性化する
- 学校以外にも立ち寄る施設があり、まちの関係者が増える
- まちづくりに携わることでまちに愛着を持つ事ができる

今後、どのような施策が考えられるかを検討する

2．産学公連携のあり方について

■意見聴取結果のまとめ（施策に関する意見）

●コミュニティ形成　●イベントの実施　●実証実験フィールド　●インターンシッププログラム
●拠点づくり　●体験の機会の創出　●データ基盤の連携　●起業家支援

【コミュニテイ形成】

- まち中のカフェを会議室の代わりに使えるなど、会議や授業をしていい場所をキャンパス外に増やすために場所を提供してくれる人を募集し、市民を巻き込む。
- まち全体をあげて、プラットフォームをつくり学生の受け入れ体制を構築する。

【拠点づくり】

- 学術・研究拠点の集積化。
- 産学公の交流拠点、スタートアップのインキュベーション拠点を整備。

2．産学公連携のあり方について

■意見聴取結果のまとめ（施策に関する意見）

●コミュニティ形成　●イベントの実施　●実証実験フィールド　●インターンシッププログラム
●拠点づくり　●体験の機会の創出　●データ基盤の連携　●起業家支援

【イベントの実施】

- 食や健康イベントの聖地化。
- 一般向けの講座やフォーラムの実施。
- 面白い企画を卒業生などを含めて立案し、学生が活動するコンテンツを創出。
- イベントが定期的に実施できる空間・施設を用意しつつ、その施設の中にイベント開催以外のストック情報を提供する機能も持たせることで、イベント参加者が偶然的にそういった情報にも触れられる機会の創出。

【体験の機会の創出】

- リビングラボ的な研究成果やスタートアップの商品・サービスの未来体験の場の創出。
- 新しい技術やビジネスモデルをもって社会実装に取り組む企業・起業家の製品やサービスを身近に触れてもらえる場の創出。
- 体験すると面白い研究を絶えず開示するようなSFCのショーケース化。
- オフィス型やラボ型ではなく、外部の人がここに行ってみようという仕掛けを持つオープンな場で、食事も完結して、立ち寄って見て帰れる場所。

2．産学公連携のあり方について

■意見聴取結果のまとめ（施策に関する意見）

●コミュニティ形成　●イベントの実施　●実証実験フィールド　●インターンシッププログラム
●拠点づくり　●体験の機会の創出　●データ基盤の連携　●起業家支援

【実証実験フィールド】

- ファンド投資につながる、投資前後の実証実験フィールドの提供。
- ドローンの活用や二次交通モビリティサービスの実証実験。
- 商業施設を活用した先進技術・ソリューションの実証実験。

【データ基盤の連携】

- 行政サービスや住民データなどの地域データ基盤の連携。

2．産学公連携のあり方について

■意見聴取結果のまとめ（施策に関する意見）

●コミュニティ形成　●イベントの実施　●実証実験フィールド　●インターンシッププログラム
●拠点づくり　●体験の機会の創出　●データ基盤の連携　●起業家支援

【インターンシッププログラム】

- スタートアップが人材難のため、学生向けの有望なスタートアップ企業のインターン募集や採用等の情報提供。
- SFCの学生はインターンシップを積極的に行っているため、挑戦的な課題を遠藤地区の企業や行政で提供。

【起業家支援】

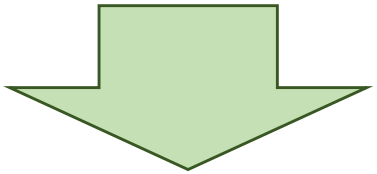
- 事業アイデアを持つ学生が投資家（自治体、金融機関、地元企業なども含む）を募るためのピッチイベントの開催。
- アントレプレナーシップを持つ学生/OBOGが地元との接点をもち相談できる環境づくり。
- 起業家や経営者への経営やビジネスに関するインプットを目的としたプログラム提供。
- 自治体や金融機関による補助金・助成金などの資金調達に関する情報提供のセミナーを開催。

2．産学公連携のあり方について

■ **参考資料**

その他で挙がった意見

■ **当該地区の強みや特性**に関する意見
■ **当該地区で産学公連携を進めるうえでの課題点**に関する意見
■ **仕組みや体制**に関する意見



意見を踏まえ、産学公連携実行プラン1,2,3,5章を作成

1．プランの位置づけ
2．策定の背景
3．めざす姿
4．展開する施策
5．プランの推進体制

2．産学公連携のあり方について

■ 意見聴取結果の概要

■ **当該地区の強みや特性**に関する意見

【地域特性の観点】
- SFCに隣接。
- 自然が残る里山。

【大学の観点】
- 問題発見解決をベースとして、研究成果の社会実装に勤しんでいる SFC が存在する。（関係者として約5,000人存在）
- SFCにおける研究の蓄積、高等教育機関としての位置付け。
- 社会課題解決等について興味関心、感度が高い学生が多くいる。

【産業・マーケットの観点】
- 大企業の研究開発拠点等が近隣にある。
- マーケットの反応を得られる環境にある。　（テストベッドフィールド）

■ **当該地区で産学公連携を進めるうえでの課題点**に関する意見

- SFCが外に染み出していないため、周囲に影響を与えていない。
- コミュニティの醸成という中では、仲間内という発想ではなく、外部との風通しが良い環境をつくっていく必要あり。

2．産学公連携のあり方について

■ **仕組や体制**に関する意見

●支援体制
・コーディネート・マッチング・人材教育・マネタイズ
●SFC関連の人的リソースの有効活用
●外部連携
●中長期的な機能維持
・マネジメント・エコシステム

【コーディネート】
- 大学・民間企業・行政の中間に位置し、公平性や公益性を保ったコーディネーション活動。

【マッチング】
- 企業側と大学側相互のニーズおよび提供できるもののすり合わせができるマッチングプラットフォーム。マッチングフォームや人材の人的・金銭的支援。

【人材教育】
- 支援人材に対する教育等の支援（支援者支援）。

【マネタイズ】
- 地域での活動が、学生自身の成果につながり、また企業が少額でも支援してくれる仕組。
- 人件費等に係る財源の確保。

2．産学公連携のあり方について

■ **仕組や体制**に関する意見

- ●支援体制
  ・コーディネート・マッチング・人材教育・マネタイズ
- ●SFC関連の人的リソースの有効活用
- ●外部連携
- ●中長期的な機能維持
  ・マネジメント・エコシステム

【SFC関連の人的リソースの有効活用】
- これまでのSFCで加盟してきたコンソーシアムをカテゴライズし、どういった事に興味を持って取り組んでいるか、まちで取り組める内容を明確にする。
- 遠藤地区のラボラトリーやコンソーシアムを立ち上げて興味ある複数の教員を巻き込み。
- ラボラトリーを組織化して活動を広める。

【外部連携】
- FSSTコンソーシアムとの連携など、まちづくりプロジェクト間の連携。

【マネジメント】
- 明確な目的・目標設定と長期でマネジメントできる人材。
- 経年による参画企業の共創意識のバラツキ、低下の抑制。

【エコシステム】
- 実証実験の実施等に対してのエコシステムの形成。